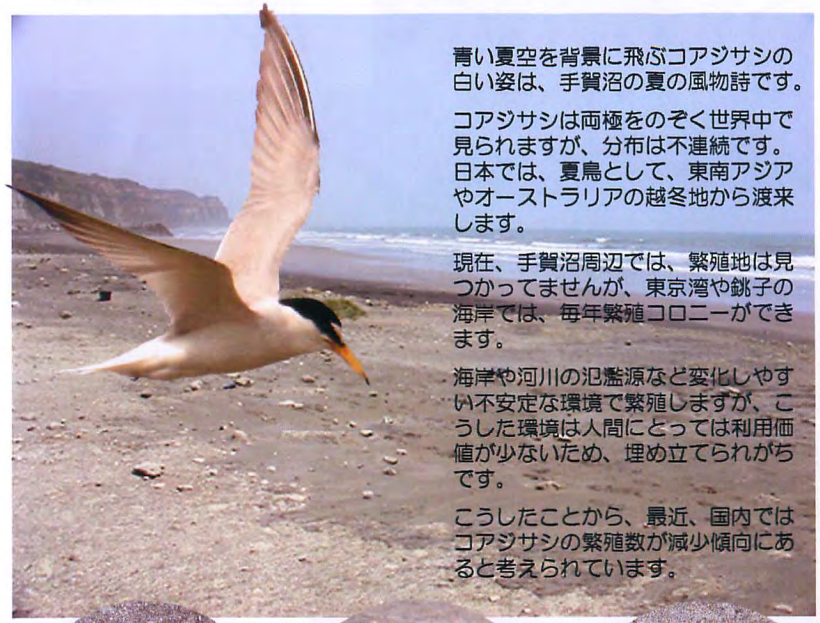
この鳥を観察しよう！

コアジサシ　*Sterna albifrons*（カモメ科）



青い夏空を背景に飛ぶコアジサシの白い姿は、手賀沼の夏の風物詩です。

コアジサシは両極をのぞく世界中で見られますが、分布は不連続です。日本では、夏鳥として、東南アジアやオーストラリアの越冬地から渡来します。

現在、手賀沼周辺では、繁殖地は見つかってませんが、東京湾や銚子の海岸では、毎年繁殖コロニーができます。

海岸や河川の氾濫源など変化しやすい不安定な環境で繁殖しますが、こうした環境は人間にとっては利用価値が少ないため、埋め立てられがちです。

こうしたことから、最近、国内ではコアジサシの繁殖数が減少傾向にあると考えられています。

一巣卵巣は1～4卵
地上に直接産卵

抱卵中の親鳥
雌雄交替で抱卵

幼綿羽につつまれ、孵化直後から活動する

＊走行中の車や自転車に注意！
＊畑や田んぼへの立ち入りには、配慮を！

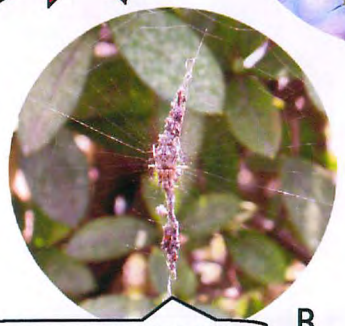
鳥の博物館手賀沼定例探鳥会　　2006年7月8日（土）

とりはく　てがたん

「てがたん」コースで見られる

これは何？

A



ゴミの中のどこかに隠れてます

B

C

● 7月の二十四節気*（にじゅうしせっき）

・7月7日：小暑（しょうしょ）＝暑い風が吹き始め、暑さが本格的になるころ。日は徐々に短くなるが、暑さは日増しに加わる。
・7月23日：大暑（たいしょ）＝暑さきわまる頃。これを乗り切るために土用の丑の日にウナギを食べる風習が生まれた。

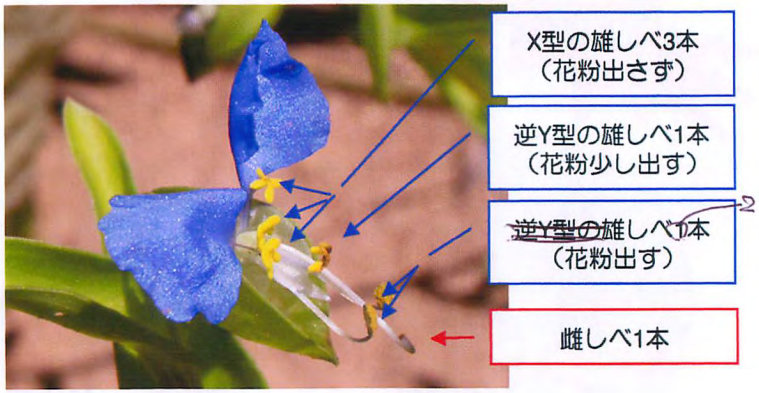
注．＊中国から伝わった季節区分。一年間の見かけの太陽の通り道である黄道を二十四区分し、各時期毎に、その時期の気候をよく示す言葉で表現したもの。

A ｱｸﾞﾊﾞﾉｷの花, B ｺﾞﾐ, C ﾔﾌﾞﾚﾊﾞｷﾞの花

じっくり観察：ツユクサの花

ツユクサ *Commelina communis*（ツユクサ科）

東アジアの温帯、暖帯に分布する一年草です。日本では、北海道から沖縄まで全国的にみられます。



★トピックス：ツユクサの花びらの青い色素は、水洗いすると落ちやすいことから、昔から、友禅染などの下絵を描くために使われてきました。今では、この青色物質が、アントシアニンとフラボンとマグネシウムの融合によって出来ることが知られ、化学構造式も明らかになっていいます。この色素は、ツユクサの属名にちなみコンメリニンとよばれています。